

戦後・被爆60年 平和なアジアと世界めざして
米軍基地の再編強化反対、基地も軍事同盟もない日本を
憲法改悪反対！ 九条守り、非核・平和の日本を

2005年日本平和大会 in神奈川を成功させましょう

2005年7月15日

日米軍事同盟打破、基地撤去 2005年日本平和大会実行委員会

平和を愛する全国のみなさん

私たちは、戦後・被爆60年のこの秋、沖縄について米軍基地の集中する神奈川で、2005年日本平和大会を開催します。今年で20年目を迎えるこの大会は、平和のための共同の輪をひろげるとともに、米軍基地も軍事同盟もない日本をめざす大会としてかけがえのない役割を果たしてきました。

戦後60年の今こそ、戦争の惨禍を繰り返させない決意のうちたてられた世界の平和ルール＝国連憲章と、日本の侵略戦争の反省のうえにつくられた日本国憲法を生かして、平和な2世紀をきりひらいていくべきときです。

ところが日本政府は、首相の靖国神社参拝や「つくる会」教科書採択のあと押しなど、侵略戦争に無反省の立場をあらわにしています。これに対し、かつての日本の侵略戦争で2000万人以上の尊い命を奪われたアジアの人々の批判が集中しているのは当然です。いまこそ、侵略戦争の美化を許さず、平和の誓いの上に立って、平和なアジアを切り開くときではないでしょうか？

いま世界の平和にとって重大なことは、アメリカのブッシュ政権が国連憲章違反のイラク侵略戦争をいまも「正しかった」と言い張り、イラク戦争のような先制攻撃を今後も続ける立場を表明していることです。そしてそのために世界中の米軍基地を再編強化しようとしています。このなかで日本の米軍基地を世界の「中軸基地」として強化し、自衛隊が世界中でアメリカと行動できるようにすることを求めています。

小泉政権はこれにこたえて、今でさえ深刻な被害をもたらしている全国の米軍基地を、世界規模の司令・出撃基地としていっそう強化する計画を、受け入れようとしています。また、イラクへの自衛隊派兵をつづけながら、米軍と自衛隊との一体化や自衛隊の海外派兵体制強化をおすすめしようとしています。それは日米軍事同盟を「極東」の範囲をはるかにこえて、世界規模で戦争するものへと変えようとするものです。憲法九条改悪の動きの背景には、こうしたことがあるのです。

平和を愛する全国のみなさん

いま、こうした動きを許さない世論と運動が大きく広がっています。米軍基地の強化に対しては、沖縄や神奈川県座間・相模原、山口県岩国はじめ、全国各地で広範な住民と自治体が一体となった反対運動が広がっています。憲法九条を守り、憲法改悪に反対する世論と運動も急速に広がっています。被爆60周年の今年、核兵器廃絶を求めうねりも国内外に生まれています。2005年日本平和大会に向け、こうした共同をさらに広げるとともに、危険な動きの根源になっている米軍基地と日米軍事同盟そのものに反対する世論と運動を広げましょう。

平和大会はこうした問題を学び交流し、平和の流れを発展させることをめざす大会です。また国際シンポジウムをはじめ、平和を求める世界の運動と連帯して、運動を発展させていく、国際的な共同の場でもあります。今年の国際シンポジウムは「米軍基地に反対するアジアと世界の連帯を」をテーマに、アジアや世界の仲間との交流を深めます。

平和を愛する全国のみなさん

今年の大会は、米軍基地再編強化の焦点になっている神奈川県で開かれます。自治体や議会、住民が一体となったキャンプ座間への米陸軍司令部移転反対の運動や、原子力空母配備反対の横須賀の運動、空母艦載機の爆音の解消と空母母港撤回を求める厚木などの運動、豊かな森を破壊する米軍住宅建設に反対する逗子・横浜の運動など、神奈川の運動は米軍優先の異常な状況を変える、新たな流れをつくり出そうとしています。「戦争反対、平和をまもれ」「基地も、軍事同盟もない日本を」「核兵器の廃絶を実現しよう」「憲法改悪反対、9条まもれ」の声とたたかいを、この神奈川の地に総結集して、平和を守る大きな流れをいっしょにつくりだしましょう。